

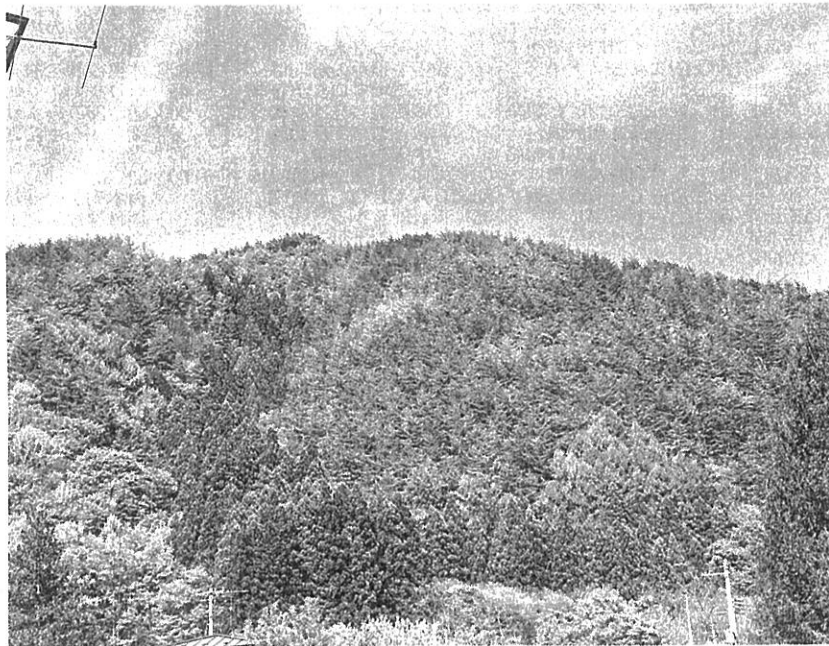
先月発生 of 宮古・山林火災

被害3億円、再生へ計画

市、県など連携し対策協

宮古市は1日、同市刈屋で4月に発生した山林火災の被害額が約3億円に上るとの試算を明らかにした。焼失した約1800杉は民有林で所有者は約50人と推計。市などは引き続き被害調査を進めるとともに、近く3者で市刈屋林地再生対策協議会（仮称）をつくり山林復活に向けた計画を定める方針だ。

市によると、推定被害額は森林保険の保険金額を基に算出した。緑色の木々が焼け焦げて茶色に変わった箇所が広範囲に点在しており、県や消防など連携して現地調査などを行い詳細な被害状況を把握す



山林火災が起きた現場。焼けた樹木が茶色に変わった＝1日、宮古市刈屋から撮影



協賛会は市、県、宮古地方森林組合で設立する。主な取り組みは▽被害木の撤出や処分の検討▽山林所有者への再生に関する説明▽補助事業の検討―とし、再生計画を作成する。
連増知事が1日、県防災ヘリで上空から火災現場を視察し被害額などの説明を受けた。終了後、記者団に「協議会の調査と対策の検討に県も参加し、さまざまな補助事業の可能性を含めながら検討を進める。山林の再生を含めた今後の復旧がうまく進むように支援していく」と述べた。
火災は4月20日午後0時50分ごろに発生。シイタケの乾燥小屋や関連する建物計3棟を全焼した。岩手、青森、秋田3県と自衛隊のヘリによる散水や地上隊の

識者談話 少しの雨で洪水や土石流に注意必要

井良沢道也岩手大名誉教授（砂防学）
の話 山林火災により土壌が大きく変化し、その上に灰が積もること雨降った場合に水をためる力がなくなり、そのまま川に流れ込む恐れがある。少しの雨でも洪水や土石流が懸念される。2017年の釜石市や1998年の軽米町の山火事で土砂流出があった。植生が回復するまで、数年間は注意が必要だ。緊急的に土のうやブロックを置くなどの対策が考えられるほか、場合によっては何年かかけて砂防堰堤や砂防ダムのようなものが必要になるかもしれない。焼けた斜面に近い集落だけでなく、水が流れていく下流の地域でも注意してほしい。

消火活動の末、23日に鎮圧28日に鎮火が宣言された。シイタケの乾燥機から出火し、山林に燃え広がったとみられ、宮古署などが原因を調べている。
県山火事防止対策推進協議会は30日に山火事警戒宣言を発令した。2017年以来4回目で、県民に注意喚起している。釜石市平田で同年5月に起きた山林火災では被害額が7億円を超えた。